

足コキ・逆レイプ・触手・浮浪者・産卵・拡張・異物挿入などのアブノーマルプレイ満載!



# 調女亦能シヤ♡ 調女又心♡

~薙♡えりなと雨♡狭霧の異種姦逆レイプ着せ替え~

DOJIN  
R18

女騎士の城

原作衣装・制服ビキニ・競泳水着・スク水・パニー・陸上ユニフォームに着せ替え可能!

遠月学園の一年生にして遠月十傑評議会に名を連ねる「確切えりな」には、誰にも言う事が出来ない秘密の趣味があった。  
えりなは今日も、自分に食戟を挑んできた生徒を返り討ちにして、その生徒を空き教室へと連れ込み、ストレス解消の道具にしていた。

「えりな」 「ラフツ…ほら、どうかしら？ 1日中ずっと履いて、ムジムジになった私のニーソックスの感触は？」

「生徒」 「うぐっ…ま、まさかアンタにこんな趣味があるなんて…この事を俺が言いふらしたら、どうなるかわかってるのかうー？」

ははは

ドキドキ

「えりな」 「貴方がどれだけ言いふらしても、しよせんは負け犬の遠吠え。誰も信じてはくれないでしょうし、私に対する悪質な悪口を言いふらしたとして、学園から退学処分になるのがオチよ。わかつたら大人しく、その粗末な物を勃起させなさい♥」

「生徒」 「う、この姿勢めう…！ こうなったらとことん犯して思い知らせてやるからな！」

びしょ

びしょ

びしょ

びしょ

「えりな」 「ふふっ、今日は貴方に良いものを見せてあげるわ♡」

「生徒」 「いいもの…？ その器具は一体…」

「えりな」 「ラフツ…童貞君にはわからないかしら？

これはクスコと言って、女性のごこを広げて、子宮口を露出させるものなのよ♡」

「生徒」 「子宮口を露出…？ ま、まさか、いいものって…」

ドキドキ

ははは

「えりな」 「んっ…ほら、見えるかしら？ 私のきれいな子宮口♡

ここに精液を流し込むのが最高に大好きなの♡  
どんな美食よりもこれが一番ねっ♡」

「生徒」 「うわっ…ほ、本当にピンク色の子宮口が見えてるっ…

しかもビクビクして…え、エロ過ぎるっ…！」

ぐん

ググググ

びび



「まりな」 「ほらほら、早く持つてきなさい。仕掛けに入ってるはずだから」

「生徒」 「なんてこんな真夜中にタコなんて取りに海まで来るんだよ。確かにイキのいいのが何匹か捕まってるけど……」

「まりな」 「フッッー見ていればわかるわよう♡  
それじゃあ、貴方はそこで人が来ないように見張っててね♡」

「生徒」 「「クス」なんか出して、今度は一体何をするつもりなんだ……  
ま、まどかはそのタコを……?」

ドキドキ

ドキドキ

びん

ドキドキ

ドキドキ

びん

「まりな」 「ほら、おいでっ♡♡♡ ひっ……ああああああっっっ♡♡♡  
タコなんて初めてだけど、すっごい奥まで入っくてくるっ♡♡♡  
膣も子宮口も吸盤で吸われて……これやばいっ……痺になるっ♡♡♡  
あひっ……!? タコが子宮に入ってきたあっ♡♡♡♡♡♡♡」

「生徒」 「食材まで玩具にするなんてっ……こいつ本当に十傑の一人なのか……?」

えりなの常軌を逸した変態ブレイを間近で見せ付けられ続けて、  
ついに生徒はえりな無しでは生きていけない体になつてしまつた。  
そして食戟の結果とは関係なく、えりなの奴隷として生きると決め、  
今日も主たるえりなを喜ばせるために、えりなの下へとやつてきた。

「えりな」 「ラフツ…すっごいチンカス♥ ここまで匂つて来るわ♥  
私のために濡め込んでくれておいたのね？」

「生徒」 「は、はいっ…！ 二週間の間、オナニーを我慢しつづ、  
ペニスも洗わずに過ごして来ましたっ…！」

ゴキゴキ

はなはな

「えりな」 「ふふっ、嬉しいわ♥ それじゃあご褒美に、貴方の大好きな  
私の子宮口を見せつけながら、足コキしてあげるわねっ♥  
ほらほら、どう？ 気持ちいいかしら？ 肉奴隷君♥  
でも、貴方のチンカスも精液も全部私の物なんだから、  
私の前以外では絶対に出しちゃ駄目だからね？  
ふふっ…♥  
いつまで続くか楽しみね♥♥♥」

くしゃくしゃ

ぐんぐん

ぐんぐん

ぐんぐん

ぐんぐん

「えのな」 「んん…それじゃあ貴方の魚貞、この私が頂くわね!」

「生徒」 「ん…まさか「ハル…アノタ…ノコ…ノコ…」って」

「えのな」

「貴方のような雑魚童貞に、「ランドム」なんて上等な物  
必要ありませんっ♥(ほら、根元まで食入られちゃったわよ)」



「んん」  
「んん」

「んん」  
「んん」  
「んん」

「んん」  
「んん」

「んん」

「んん」  
「んん」  
「んん」

「んん」



「生徒」

「し、締め付けが強くなってる……無頭で腰肉が絡み付いてっ……」  
それに真・宇宮回っ……？ が、我慢できなう……あもっ……」

「えりな」

「クスッ……もうイッっちゃったの？ たっなり出してっ……」  
これだから童貞は♥ ほち、あっ……回は出してっ……あもっ……」



フツ  
フツ

フツ  
フツ

フツ  
フツ

フツ

フツ  
フツ

フツ

「このまま」「ひんああああああ…… 触手の産卵管が、子宮に突き刺さって……」

「生徒」 「う、そんな得体の知れないものと交尾するなんて無茶ですよ……  
やめてください、死んじゃいますよー」

「まのま」 「な、何言ってるの…… この私に食べられない物なんて無いんだから……  
ほ、ほらっ……♡ もう私の子宮が、触手になじんできたわっ……♡」

「あははは」

「あははは」

「あははは」

「あははは」

「あははは」

「あははは」







【モニカ】

「さ、膣の辺りまで子宮が引き伸ばされてたのよ……♡

ひびく……♡ も、もう精液出るのよ……♡ あつ……♡  
ひびく……♡ ああ……♡ ああ……♡ あつ……♡ ♡♡♡♡♡♡

【生徒】

「う、うわう……！ すげえ量の精液があふ出して来てるのよ……♡  
えらい様ぞげえ……！ 俺もう一生奴隷として生きてらねえわ……！」

ぷるる

びびり  
びびり  
びびり

ぽろぽろ

んん

びびり  
びびり

んん



ぽんぽん

ぽん

ぽんぽん

ぽん

ぽんぽん

【解説】

「んひひ…… たまらねえー  
一週間ぶりのえりなちゃんのおまんこ  
すっぴん締め付けてくわんわん……」

【えりな】

「ぶふっ……♡ おじ様のオチンチンも、チンカスが  
はらわびしてて、とっても気持ちいいですわ♡  
もっとえりなの子宮にチンカスを磨り付けて下さい♡」

「おはよう」

「ん」

「おきおき」

「ん」

「おきおき」

「おきおき」

「おきおき」

「浮浪者」

「おいホウス、えりなちゃんはな、俺達浮浪者のような、チンカスまみれのなつたチンホが大好物なんだぜ」

「えりな」

「クッスッ…遠月学園のエリアートで美少女の私が、こんな所で浮浪者のチンカスと精液を搾り取ってるおじ様、早く私の子宮に精液を出して下さいな♥」







1688  
1688

ひび

ギギギ  
ギギギ

ひび

ひび  
ひび

ひび  
ひび

【子宮】 「んんん…ひびひび…」  
「子宮と膣が突き刺さってるー」  
【生徒】 「えっ… 何が起こった、この変態女…」  
子宮に膣が入り込んで気持ちいいだわん！」  
【先生】 「んん… このっ… 調子に乗ってっ… ああああああ…」  
【生徒】 「んん… そのっ…」  
【先生】 「んん…」  
【生徒】 「んん…」  
【先生】 「んん…」

闇夜に紛れ、人に仇なす暴虐非道の妖怪共に、  
神秘霊妙の奥義を以つて天誅を下す「誅魔忍軍」  
と呼ばれる霊能忍者集団があつた。  
その中でもエリート誅魔忍である「雨野狭霧」は、  
卑劣な妖怪に一般市民を人質に取られ、  
その身を穢されていた。

「狭霧」 「ひくつ……こ、この卑怯者め！  
無関係の人を人質にとるなど……！」

「妖怪」 「いいザマだなあ、誅魔忍さんよ。  
俺たちの仲間を退治してくれたんだ。  
その体でたっぷり償うてもらうぞ！」



「あーあ」  
「あーあ」

「うん」

「あーあ」  
「あーあ」

「うん」

「あーあ」  
「あーあ」  
「あーあ」

「あーあ」  
「あーあ」  
「あーあ」



「ほらほら、どうだエロ誅魔忍さんよ！  
初めてのセックスは気持ちいいか！？」

「こ、この程度…激しい修行と比べれば、  
どうという事は…ひっ！？」

「な、中に出すなああああつっ！」

「へへっ…俺達全員の精液を、  
てめえの子宮に流し込んで、  
ぎゅちり孕ませてやるからな！」

「ぎ、貴様らっ！絶対殺す！  
殺してやるからなああ！」

【狭霧】

【妖怪】

【狭霧】

【妖怪】



「狭義」

「ひっ……ご、こんな化け物相手にっ……まきかっ……  
や……やめっ……！ ああああああつっつっ……！」

「妖怪」

「ひっ……誅魔忍とは言え、化け物に  
犯されるのは怖いと見える。  
貴様ほどの霊力があれば、強い  
妖怪を生み出す母体となるだろう。  
俺たちの苗床となって、  
仲間を沢山産んでもらうとしよう」

「狭義」

「ご、こんな化け物の子なごっ……  
だ、誰が孕むものかっ……！  
ひっ……あああああつっつ……！」

「んっ」

「んっ」

「んっ」

「んっ」

「んっ」

「んっ」

「んっ」





【狭霧】

「ひっ……？ な、中で何か出てっ……  
何か丸いものが、子宮に張り付いてっ……  
これはまさか……卵……？  
いやあああああ……」

【妖怪】

「これでデメエも立派な苗床だな！  
汚い妖怪の子種を孕みやがれ！」

狭霧は妖怪の触手に子宮まで犯され、  
その中に小さな卵を産み付けられた。  
卵は狭霧の霊力と男の精液を吸い成長する。  
そして仲間に救出されるまでの数日間、  
狭霧は徹底的に犯され続ける事となった。

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「仲間」

「さ、狭霧様…本当にやるのですか…？  
今なら卵を取り出す事も出来るのですよ…」

「狭霧」

「…あんな相手に遅れを取ったのも、  
私が性行為の修行を怠っていたからだ。  
修行で精液を集め、魔物の卵を産み落とせば、  
妖怪の生態を研究できて一石二鳥だろう？  
ほら、中の卵がどうなっているか、  
しっかりと確認してくれっ…」

「はっ」

「はっ」  
「はっ」

「キキキ」  
「キキキ」

「はっ…」

「はっ」  
「お」



「うおお……」こいつレイプ志望の痴女のくせに  
とんでもねえ締め付けしてやがるっ……！」

「狭義」 「ふふっ……この前まで処女だったんですから当然です♡  
ほらほら、後がつかえてますよ？  
遠慮なく私の子宮に、おじさんの精液を  
吐き出して行つてくたさいっ♡」

「淫浪言」 「へへっ……そんなに精液が好きなら  
全員分たっぷり流し込んでやるぜ！」

「んっ」

「んっ」  
「んっ」

「んっ」  
「んっ」

「んっ」

「んっ」  
「んっ」  
「んっ」

「んっ」  
「んっ」  
「んっ」





「うう……」  
とんでもねえ締め付けしてやがる……」

「狭義」「小ふっ……この前まで処女だったんですから当然です♡  
ほらほら、後がつかえてますよ？  
遠慮なく私の子宮に、おじさんの精液を  
吐き出して行つてください♡」

「淫浪言」「へへっ……そんなに精液が好きなら  
全員分たっぷり流し込んでやるぜ！」

うん

んんんん  
んんんん

ゴキゴキ

んんんん  
んんんん

うん



はっはっ  
はっはっ

はっはっ

はっはっ

はっはっ  
はっはっ

【狭義】

「ひっ……♡ ああああっっっ♡

こ、これも快楽に流されないうための

修行ですっ……だ、だからこのまま……

ひきいっ……？ 触手が子宮にっ……？

あひっ……♡ い、一番奥を

かき回されてるっ……♡♡♡

【仲間】

「さ、狭義様う…… おやめ下さい！

誅魔忍のエリートが、こんな低俗な

妖怪と交わるなっ……」

【狭義】

「ひきっ……ご、こんな化け物と

交尾するなんてっ……あああっっっ♡」

はっはっ  
はっはっ  
はっはっ  
はっはっ

はっはっ  
はっはっ  
はっはっ  
はっはっ



びしょ  
びしょ

びしょ

びしょ

ぐしょぐしょ

本能だけで動き、自我を持たない触手は、  
狭霧の子宮を自分の子を育てる苗床と判断し、  
その精液を大量にぶちまけ満たしていった。

【狭霧】「ひっ……しょ、触手の動きがたんたん……  
で、出るのう……？ い、いいわう……♡  
私の子宮に……ばい出してっ……♡」

【狭霧】「あひっ……あああああ……♡♡♡  
触手の精液が、私の子宮に……♡♡♡  
しゅ、しゅ……♡♡♡

卵管まで……とる……が流れ込んで  
イツちやう……♡♡♡」

ぐしょぐしょ

ぐしょぐしょ

ぐしょぐしょ



ぶちゅぶちゅと首を立て、テニスボールほどの卵を3、4個と産み落としながら何度か絶頂し、地面に愛液の水溜りを作った。

【狭霧】

「ひくっ……」このままじゃ、

子宮が破裂するっ……

た、卵産まなきゃ……ひっ……

子宮口に引っかかってっ……

あひっ…… あああああっっっ！



びゅん  
びゅん

びゅん

びゅん

びゅん

びゅん

びゅん





びしょ

びしょ  
びしょ

びしょ

びしょ  
びしょ  
びしょ

びしょ  
びしょ  
びしょ

びしょ  
びしょ

狭霧は何度も触手に犯され、完全な  
精液中時の状態となつてしまつた。  
常に子宮に精液が入つていないと  
滴たされなくなつた狭霧は、  
浮浪者たちから搾り取つた精液を、  
直接子宮へと注入していく。

【狭霧】

「はあっ……はあっ……  
んっ……こんな程度の精液でイクなんて  
修行が足りない証拠だなっ……  
もっともっと、激しいHをしなければ……」